

No.23

2000年

(平成12年)

同窓会だより

— 発行 —

旭川厚生専門学院
同窓会

岡山市祇園地先

TEL (086) 275-0145

FAX (086) 275-3283

— 編集責任者 —

同窓会会長 中尾 絹江

創立三十周年によせて



同窓会会長

中尾 絹江

私は昭和四十六年入学の第一期生です。まさに学院の歴史は私の生活史そのものではないかと感慨深く噛みしめております。

できたての校舎の臭い、授業を受ける頭上で工事の音が響くなか、誰もが新たな志を胸に勉強をしていま

岡山支部だより

岡山支部長 西野 順子

あじさいの花影に向夏を感じる今日この頃、同窓会の皆様、学院の先生方には、益々のご健勝の事と、お喜び申し上げます。

支部会も結成から、早十一年が立ちます。その間五回目的、岡山支部会(平成十年)を終了致しました。そして本年度、平成十二年に創立三十周年記念として、同窓会総会が開催されようとしています。

三十年は、あっという間に過ぎたように感じますが、ここ迄くるには学生、同窓生、特に学院の先生方、事務局の方々のご協力があつたからこそと言えます。

平成二年「福祉情報科の設立」平成六年「福祉レクリエーションワー

した。殆どどの学生が旭川荘で、早朝と放課後アルバイトをしていたので、眠い目をこすりながらの講義でした。しかしその内容はすばらしいものだったと実感しております。

今も脳裏に残っているのは、教育学は岡山の大学の原教授、生物学の渡

カー、身体障害者スポーツ指導者「平成七年「福祉研究科設立、医事管理士」平成十一年「いきがい情報士、四年生大学編入」への認定校として許可を得るなど、三十年の間大々的に飛躍発展して参りました。

今後も医療福祉分野で働く、優秀な専門職員を社会に送り出すために、又二十一世紀にはばたく学生のためのよい環境づくり、人間づくりの場であるように、ご協力できたらと思っております。五年に一度となりました岡山支部会、平成十五年に予定致しております。皆様のご期待に添えるよう役員一同微力ながらも尽くしたいと思っておりますので御支援、御指導、御協力のほどとぞ宜しくお願い致します。



辺教授、生化学は大森教授、そして心理学の笹野教授：等私たちの財産として今も生きていますと確信しています。また寮生活でも多くを学んだ二年間、一生の友をここで得たのです。

三十年という時間で大きく様変わりした母校ですが、今後も一層の発展を願うとともに、福祉施設に併設された意義を、同窓生として広く伝授してゆきたいものです。そして「ありがとう」と申し上げます。

卒業後はや十六年

広島支部長 松田 憲尚

創立三十周年とお聞きし、自分の年や卒業の歳月をつい思い起こします。私の場合十六年を経たことになりました。この間、頭の中から遠く過ぎ去ったものもあれば、その反対に昨日の出来事かのように鮮明に蘇ってくる情景も確かにあるようです。

同窓生の皆様はいかがなものでしょうか。十六年の間に、成長したなど自分なりに納得できる面、時は経っても全然変わってなくてこの先も自分分はこれだけのかなと思ふ面、ちよつと今まではスタイルを変えてみよ

うかなと思ふ面、色々と思ひ浮かんできます。時が経てば移り変わるものが自然というものかも知れません。その中であって、我々の心のささ

えとなるものは、精一杯やった、そしてそれを見守っていて下さったという母校での思い出の数々、あるいは、教務の先生方のお叱りであったり友人の励ましであったりするものと感じます。

30年を振り返って

関西支部 大下 光子

母校が30周年を迎え、今更ながら月日の流れの速さを痛感しております。私が入学した頃は、田んぼと畑に囲まれた中に旭川荘の施設があり、少し離れたところにボツンと学院の建物がありました。

当初は保育科と看護科だけで、学生数も少なくまた教務の先生方も3人と、家庭的なムードでした。寮生活も始まり、授業終了後はアルバイト先に急ぐのです。また休日には時々ピアノ室に入り、ポロン、ポロンと弾いて楽しんだり、同窓の人と夜遅くまで雑談をしたことなどの出来事が、昨日の事のように回想されます。

1期生と言え、年齢差のある方も多く、ユニークな人達の集合体であったように思われます。看護婦になる、保母になるという同じ目的をもった学生、仲間意識も強かったのではないでしうか。学院の思い出はクラスメートぬきには、語ることができません。

我がクラスメイトよ！30年という月日の流れのなかで得たもの、また失ったものを持ち寄り、もう一度あの時の学生に返り、お会いしましょう。会えることを楽しみに。友よ！母校の益々なる発展を願っています。

時を刻む



学院長 國 塩 輝 昭

平素、旭川厚生専門学院の教育推進に大きなお力添えをいただいております。心から御礼を申し上げます。

本学院御卒業の皆さまが、全国各方面で活躍されておりますことは、私どもにとりましてこの上ない喜びであり、在学生にとりましても頼もしい限りであり、大きな励みになっております。

6月に入りまして、私たちはすでに来年度の学生募集に力を入れてお

ります。また、この時期は学生一人ひとりが自ら学習に意欲的に取り組んでいかなければならない時機でもあります。

学生にとって、日々の学習はその成果がすぐに目に見えませんが、学生自身が進むべき道についてきちんとした目標を持つこと、そしてその目標に向けて今自分が取り組んでいる学習がどのように結びつくのかを自覚しながら勉学を進めていくことが大切であり、指導する側に課せられ

た任務でもあります。

学院に保管されている記録を読んでもみずと、開校当時も色々困難なことがあったようではありますが、現在も学院が「在るべき姿に保たれていく」ことは容易なことではありません。学生ともども歩む日々のことのうち、目に見える事象の大半は、やがて人々の脳裡から消えていくものでしょう。しかし、刻まれる時の軌跡は必ず残っております。

留めおかれるべき跡をきちんと残してきていただいた諸先生や先輩方に感謝しながら、良き伝統をどのように生かしていくのか、私たちに与えられた課題であるとともに、常にそのことを心に保持しながら送りしなければなりません。

卒業生だより

児童福祉科
二十六期生 平岡 真喜

二十六期生の皆さん、学院の先生方、お元気ですか。早いもので学院を卒業して二年がたちました。

私は、知的障害者更正施設に就職し、学院の先輩・後輩に囲まれ、毎日楽しく仕事をしています。時には

失敗をして落ち込むこともあります。周囲の励ましや利用者の方の笑顔に助けられています。

今年はいよいよ三年目、気持ちを新たに何か資格を取得しようと考えています。さらにそれを仕事に生かしていきたいと思っています。(か)なりの努力が必要ですが……)

介護福祉科
十期生 松本 留美

学院を卒業して、はや二年目を迎えました。私は、現在二月に川上町に開設したばかりの老人保健施設に

入試情報

推薦入試

十月二十九日(日)

一般一次入試

一月二十八日(日)

一般二次入試

三月四日(日)

社会人入試

三月十六日(金)

主な年間行事

★キャンパスサービス(十月十八日)

★就職式(十月二十日)

★第二十八回学院祭

(十一月二・三日)

★卒業演奏会(二月下旬)

★卒業証書授与式(三月十五日)

勤務しています。施設開設までは、町の福祉機関であるホームヘルプサービス・デイサービスセンター・デイケア・診療所での病棟勤務をそれぞれ数ヶ月間ずつ研修しました。仕事の内容を把握していく事が、難しかったけれど、貴重な一年間でした。

開設当初からカンファレンスを度々重ね、慌ただしい毎日を送っていました。しかし、入所者の方とのコミュニケーションや、職場の素晴らしいスタッフが私にとって一番の支えとなり、毎日元気に頑張っています。まだまだ未熟者ではありますが、今まで経験してきた事をこれから、生かしていきたいと思っています。

同窓会員数

平成12年3月現在(平成12年3月卒業生)

同窓生総数	5,536名(277名)
保育科	1,157名(32名)
福祉科	811名(78名)
福祉科	89名(18名)
福祉科	194名(12名)
福祉科	1,650名(83名)
福祉科	1,635名(54名)

福祉研究科
五期生 武田有希子

介護福祉士として働き始めて、3カ月間が過ぎようとしています。この3カ月間は、毎日の業務を覚えることに一生懸命で、介護福祉士としてどのようにありたいなどと考えて余裕はありませんでした。ただ今思うことは、私はいろいろな人の「笑顔」によって支えられているということ、自分自身の「心の持ち方」によって物事が変わってくるということです。どんなに大変な時や忙しい時でも、利用者の笑顔や同僚の笑顔を見ると、心が和み、励まされ、頑張る力がでています。友達の笑顔

を見ると疲れが癒され、元気になる。『笑顔』の力はすごいと感じます。「心の持ち方」によっても自分が楽になることも気がつきました。どうせするのなら、楽しんでしよう、喜んでしようと思ひに伝えていきます。まだまだスタートしたばかりです。これからいろいろな事があると思いますが頑張りたいと思います。皆様と元気に「笑顔」でお会いできる日を楽しみに持っています。

福祉情報科
七期生 石井 良江

学院を卒業し、3度目の夏を向かえました。皆さんの様にお過ごしでしょうか。

医療事務員として向えた最初の夏は、月末・月初めレセプト業務が深夜にまで及ぶ毎日でした。日常業務では簡単だと思っていた電話応対が予想以上に難しく、自信喪失になることもしばしばありました。おまけに、励ましてくれる人もいない一人暮らしは、時間にも心にも余裕のない寂しいものでした。

二度目の夏、勤めた職場を辞め自分を見つめ直す時間を作ろうと決心しました。医療事務に夢と期待を持っていた頃の自分を取り戻すために。退職するまでの数ヶ月は、新しい自分へプラスになるものを全て吸収し、身に付けることに努めました。

そして三度目の夏、地元の診療所で再び医療事務員として働いています。一日平均二百人以上の患者が来

る整形外科です。患者の多さと、膨大な業務内容に最初は驚きましたが、以前の職場と違い、職員の方々が親切で、仕事もやりがいある職場です。毎日業務に追われる日々ですが、仕事を楽しめる今日を嬉しく思います。最近では、高校時代の部活仲間とバトミントンを始め、親への感謝の気持ちも再認識し、時間にも心にも余裕を持つことができました。環境、職場、人間関係、業務内容で全く違った生活があり、自分に自信を持つことで新しい世界がひらけるということを経験しました。

私の同期には、介護や看護をして保母などそれぞれの道に進んだ人達がいいます。そんな皆の話が聞きたいので同窓会がある時は必ず全員に会いたいです。楽しみにしています。

第一看護科
十六期生 川上かよこ

学院を卒業してもう4年余りになりますが皆様お元気でお過ごしでしょうか。私は現在も川崎医大で勤め、今年で5年目になりました。

毎日、個々に合った看護ができるようにと思ひながら患者さんに会いに行っています。経験を重ねるうちになんと個性のある看護が展開できるようになりましたが、何年経っても人を見るという事はむずかしいのかなと思います。病気だけでなくその人個人を知らなければ適切な看護もできず、ただの押しつけ看護にしかならない事を実感して

います。身体的、精神的な看護を患者、家族に行い、信頼関係が築け、よい反応が得られたときに初めてこの看護で良かったんだと思え、その喜びがどんなに忙しくても看護婦を続けられるエネルギーになっています。

第二看護科
二十二期生 尾崎 明美

学院を卒業してから6年目を迎えました。二十二期生の皆さん、お元気で過ごしてはいかがでしょうか？

私は現在も地元の病院で働いています。ここでは患者さんは圧倒的に高齢者の方が多く、いちがいに、内科、外科と分けられないことが多々あります。世の中の動きでも今年4月から、介護保険が実施され、我が病院でも居宅介護支援事業所として位置づけられ、医療・福祉のあり方などもどんどん変わってきていることをじかに感じています。

また、昨年から、ケアマネージャー業務も始まり、私もその一員として動いています。通常業務とのかけもちや、制度の仕組みが複雑なことから、混乱することもたびたびあり、その度に、最初は何にでも大変だけど、やってみたいと分からないことある。と、自分に言いかけながら

ら頑張っています。地域での関わりは、多面的な知識や経験が必要とされてくることをあらためて実感し、今後も、豊かな人間性がもてるよう、努力していきたいと思っています。

「旭川厚生専門学院に
感謝の思いをこめて」

福祉科
一期生 國定 美香

学院の皆様、卒業生の皆様には、お元気で活躍のこととお祈りします。

学院を3月に退職してから、3ヶ月が経ちました。福山の短期大学の仕事は、馴れないことばかりで、慣れない日々を送っています。そして、そんな毎日を支えているのは、学院の思い出と言えます。学院の学生として、教員として、学んだことは、貴重なことばかりでした。人前で話をする、伝えることの難しさも経験しました。そして一番嬉しかったことは、後輩である学生さん達と過ごせたことでした。特に介護福祉士は、これからの分野だと思ひます。だからこそ、共に成長できるように努力することが大切だと思ひます。

今後、手先のみのテクニクに頼るのでなく、自分で考える力をもった感性豊かな介護福祉士が学院から育つことを楽しみにしています。最後になりますが、皆様方のご健康を心からお祈り申し上げます。

「再び臨床に戻って」

第一看護科
八期生 荷川取雪路
(旧姓 濱森)

私は、学院を卒業して12年が経ちました。6年の臨床経験の後、専任教員として約6年間、学院で後輩達と共に学び、今年3月結婚を機に再び学院を巣立つこととなりました。学院での約6年間は学生達からほんとうに多くのことを学びました。その中で、学生ひとりひとりと向き合い一人の人として尊重し大切に關わっていくこと、学生の思いを大切にしていこうと、そして、学生自身が自ら成長できたと感じられるように関わっていくことの大切さを学びました。その学びと共に6月、6年ぶりに臨床に戻っています。6年前とは大きく変化した医療の現場で自分自身が看護をどう考え、どのような看護を行っていくのかをそれを毎日問われているように思ひます。

「患者」ではなく「ひとりの人」として向き合い尊重し関わっていくという年月はやはり大きく、知識・技術・心がばらばらでそれをパズルのように組み合わせるような毎日です。臨床に戻ってまだ1ヶ月、理想にはまだまだ遠い看護を行っています。が、一歩でも近づけるようにがんばりたいと思ひます。

第一看護科20期生・第二看護科28期生のみなさんもまだまだつらいことが多いとは思ひますが、共にがんばっていきましょ。

同窓会総会のお知らせ

開催日時	2000年11月18日(土)	10時～14時
場 所	アークホテル岡山	岡山市下石井2-6-1 (086) 233-2200
会 費	4,000円	
日 程	10:10	
	11:30	講 演 江草安彦 先生
	12:00	総 会
	14:00	懇 談 会

この度は、30周年を記念して、名譽学院長の江草安彦先生の講演を企画しています。各期の同窓会役員の方々から、同窓生の皆様に参加を呼びかけていただいています。一人でも多くのご出席をお待ちしております。参加ご希望の方は、学院同窓会係まで、ご連絡ください。

是非、ご協力のほどよろしくお願いします。

学院同窓会係 086-275-0145



平 成

平 成 十 一 年 十 月、第 二 看 護 科 8 期 生、鹿 山 敏 子 様 が ご 逝 去 さ れ ま し た。謹 ん で 哀 悼 の 意 を 表 し ま す。尚、ご 妹 様 か ら お 便 り に 添 え て 同 窓 会 へ ご 寄 付 を い た だ き ま し た。厚 く 御 礼 申 し 上 げ ま す。お 便 り は 次 に 掲 載 さ せ て い た だ き ま し た。改 め て ご 冥 福 を お 祈 り 申 し 上 げ ま す。

平 成 十 一 年 十 月、第 二 看 護 科 8 期 生、鹿 山 敏 子 様 が ご 逝 去 さ れ ま し た。謹 ん で 哀 悼 の 意 を 表 し ま す。尚、ご 妹 様 か ら お 便 り に 添 え て 同 窓 会 へ ご 寄 付 を い た だ き ま し た。厚 く 御 礼 申 し 上 げ ま す。お 便 り は 次 に 掲 載 さ せ て い た だ き ま し た。改 め て ご 冥 福 を お 祈 り 申 し 上 げ ま す。

水戸 112

ご 寄 付

山 平 定 神 実 山 坪 杉
岡 岡 金 宝 盛 脇 江 原
由 文 直 誠 美 彩 武 良
佳 恵 美 子 幸 子 郎 子

謝 新 任 の 先 生

濱 赤 小 行 国 近 竹 斉 斉
森 澤 野 本 定 藤 本 藤 藤
雪 美 晴 早 美 功 博 伸 観
路 枝 子 苗 香 行 明 英 助

謝 退 職 さ れ た 先 生

人 事 異 動



今年も同窓会だよりが出来上がりました。今年も学院も三十周年を迎える年となります。同窓会だよりにお寄せくださったお便りを読むにつれ、同窓生のお一人一人が学院の三十年の歴史を綴る一ページになっていくのを感じます。これからも学院のページが綴られることを願って同窓会だよりを作っていきたいものです。

同窓会ではどんなにかしい顔に出会えるか、お互い楽しみですね。



間もなく立秋を迎えるとはいえ、暑い暑さが続いています。同窓生のみながいかがお過ごしでしょうか。今年も同窓会だよりが出来上がりました。